

第1回ミニマルファブ・シンポジウム

「21世紀型生産システムの開発」

日時：2013年7月3日（水）13:00～19:00（懇親会 17:50～19:00）

場所：コクヨホール（東京・品川）

主催：ミニマルファブ技術研究組合

共催：産総研コンソーシアム・ファブシステム研究会

半導体産業の抱える工場投資・開発投資の巨大化の課題、そして研究と生産が乖離し、ナノテクなど研究成果を生産システムへ導入できなくなっている、いわゆる死の谷の問題、それらに対して、一つの解答を与えるのが、ミニマルファブです。ミニマル (minimal) とは、必要最低限で済むという意味を持っています。ミニマルファブでは、ハーフィンチウエハを用いてデバイスを作成します。その製造装置は、30cm 幅の小さなものとします。ミニマル製造ラインでは、単一品種を製造し、多品種を同時に扱う場合は、ラインをその品種数分用意します。投資額は、メガファブの1/1000 規模で、生産量も1/1000 であり、小規模マーケット、試作ライン、および規模が変動しやすいマーケットに適しています。

広くミニマルファブ構想とその開発状況を知って頂き、また包括的に議論させて頂くために、ミニマルファブ技術研究組合では、産総研コンソーシアム・ファブシステム研究会との共催で、本シンポジウムを開催いたします。是非、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

ミニマルファブ技術研究組合 開発プロジェクトリーダー
産総研コンソーシアム・ファブシステム研究会 代表 原 史朗

★ プログラム （プログラムは調整中ですので、今後変更される可能性があります）

- | | |
|-------------|--|
| 13:00～13:10 | 開会の辞 |
| 13:10～13:40 | 基調講演「MEMS 開発の現状と今後の方向性」
東北大学原子分子材料科学高等研究機構 (WPI-AIMR) 教授 (兼)
マイクロシステム融合研究開発センター (μSIC) センター長 江刺 正喜氏
<small><講演概要> MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) は、チップ上に回路だけでなくセンサなどの異種要素を集積化することによって、高付加価値の部品を作る技術である。圧電スイッチやフィルタなど今までできなかった要素を集積化する研究などを紹介する。</small> |
| 13:40～14:10 | 基調講演「“MORE THAN MOORE” が半導体の世界を広げる」
ローム株式会社 常務取締役 研究開発本部長 高須 秀視氏
<small><講演概要> アクティブ機能を持つ新材料の組み入れ、メカ/パイオ等の異分野技術との融合が半導体の世界を広げ、より複合化した機能を実現している。多彩な材料/プロセスの組み合わせが要求されるので、ミニマルファブ的アプローチが期待される。</small> |
| 14:10～14:40 | ミニマルファブ講演「ミニマルファブ構想～コンセプトとビジネスターゲット」
産総研、ミニマルファブ技術研究組合 開発プロジェクトリーダー 原 史朗 |
| 14:40～15:10 | ミニマルファブ講演「ミニマルプロセス装置の詳細とリソグラフィ」
産総研、ミニマルファブ技術研究組合 プロセス開発チームサブリーダー クンプアン ソマワン |
| 15:10～16:10 | ポスターセッション |
| 16:10～17:40 | パネルディスカッション「ミニマルで創る新しい産業」 |
| 17:50～19:00 | 懇親会 |

★ お問い合わせ先 <http://www.semiconportal.com/minimal/>

参加申込方法：オンライン登録をお願いします。参加費無料。定員：280名。
 第1回ミニマルファブ・シンポジウム事務局（株式会社セミコンダクタポータル）
 Tel: 03-3560-3565, E-mail: minimal_2013@semiconportal.com

